

## 在シドニー総領事通信

### 第 24 回 シドニーの日本関係 3 団体： 多文化社会に生きる日本人コミュニティのために

令和 2 年（2020 年）9 月 18 日

さる 8 月 28 日、シドニー日本人会（JSS）とシドニー日本商工会議所（JCCI）の年次総会がそれぞれオンラインで開催され、新会長・会頭が選出されました。これを受けて、先週の 9 月 9 日、両団体の新会長・会頭と新事務局長、そしてシドニー日本クラブ（JCS）の会長をお招きして、顔合わせと意見交換を行いました。

シドニーには、広く日本人・日本企業が参加する主要団体として、日本企業・団体の駐在員を中心としたシドニー日本人会（JSS）、日本人定住者を中心としたシドニー日本クラブ（JCS）、そして日本企業・団体を会員とするシドニー日本商工会議所（JCCI）の 3 つがあります。それぞれが活動を行うとともに、相互に連携・協力しています。

今回の総領事通信では、これら 3 団体の最近の活動について、私自身参加した感想も交えて紹介させていただきたいと思います。そして、当地の日本人コミュニティの更なる発展のために、総領事館としてこれら 3 団体をどのように応援していくべきか、皆様と一緒に考えていければ幸いです。



日本関係3団体代表・事務局長との会合  
(向かって左から毛利具仁 JCCI 会頭、石川義一 JSS 会長、紀谷総領事、  
コストロ久恵 JCS 会長、千葉雅崇 JCCI/JSS 事務局長、2020年9月9日)

#### ●日本関係3団体との会合

今回の日本関係3団体代表・事務局長との会合は、新体制のもと初めての顔合わせとなりました。いずれの団体も、新型コロナウイルスの影響で多くの活動を中止・縮小・オンライン化しており、状況の深刻さを改めて感じました。

特に、例年シドニー大都市圏で開催されている「祭りジャパンフェスティバル」が、6月のパラマタ、9月のチャッツウッドのみならず、南半球最大規模を誇る12月のダーリングハーバーも中止と決定されたことは、やむを得ないにせよ大変残念に思います。

それでも、NSW州内の感染者数の減少に伴い、各団体とも活動を徐々に再開している由です。例えば、シドニー日本人会（JSS）ではクラブ活動の多くは既に再開しています。また、シドニー日本クラブ（JCS）は、9月26～27日にシドニー市内パディントンで「着物セール」の開催を予定しています。



クリーンアップ・オーストラリアへの参加  
(2020年3月1日、シドニー日本人会提供)

●シドニー日本人会（JSS）

8月28日のシドニー日本人会（JSS）年次総会には私も出席して挨拶を行いました。この1年間の事業報告を聞いて、活動の幅広さを改めて感じました。1957年に設立され、今は595名の会員がいます。各種年次行事のほか、ゴルフ・水泳・釣り・テニスクラブの運営や、シドニー日本人国際学校の運営協力を行っています。

私自身は、昨年11月27日にフォーシーズンズホテルで開催されたクリスマスパーティーに参加し、年末の華やかな雰囲気の中で、ラッフル抽選会やトリビアクイズを楽しませていただきました。また、本年3月1日にはレーンコーブ国立公園でのクリーンアップ・オーストラリアに参加し、日本人コミュニティの一員として当国の清掃運動に協力しながら、日本企業が経営する牧場の美味しい牛肉のバーベキューもいただくことができました。

その他、春秋のソフトボール大会や、カウラの桜祭りにあわせてのバスツアーも例年開催していますが、新型コロナウイルスの影響で当面は中止と伺っており、早期の再開を期待しています。



東日本大震災復興支援イベント  
(2020年3月6日、JCS Rainbow Project 提供)

●シドニー日本クラブ (JCS)

日本人定住者を中心とするシドニー日本クラブ (JCS) は、相互の親睦を図りつつ、日本文化の継承・維持に努め、かつオーストラリア社会に貢献することを目的に活動しており、設立は1983年、現在の会員は約350世帯です。

活動の内容は、親睦の会の開催、日本語補習校3校の運営支援、会報誌の発行、東日本大震災被災者支援 (レインボープロジェクト)、およびソーラン踊り隊、フラアロハ、ソフトボールのクラブ活動などです。また、「祭りジャパンフェスティバル」は6月のパラマタ、9月のチャッツウッドを主催し、12月のダーリングハーバーは大規模なので別の主催団体と運営委員会が立ち上げられていますが、全面的に協力しています。

本年3月6日に開催された東日本大震災復興支援イベントには、私も参加させていただきました。黙祷の後に震災関連の映画が上映され、会場では東北の郷土料理や工芸品も販売されていました。募金は東北の若者育成のみならず、豪森林火災支援にも向けられるとのことでした。当地諸企業による支援のみならず、多くの若者がボランティアとして参加していたことも大変印象的でした。



新年経済講演会・賀詞交歓会  
(2020年2月10日)

●シドニー日本商工会議所（JCCI）

8月28日のシドニー日本商工会議所（JCCI）年次総会にも出席して挨拶させていただくとともに、この1年間の事業報告を伺いました。設立は1958年、現在の会員企業・団体数は169社で、全体や業種別5部会の講演会・セミナー・視察会の開催、全豪日本商工会議所連合会での日豪政府関係者との意見交換などの活動を行っています。JCCIが毎年編集している「オーストラリア概要」は実に充実した内容で、最新版が出版されたばかりですので、是非ご参照ください。

先般の豪州森林火災に際しては、JCCIとして会員企業・団体に義援金の寄付を呼びかけ、総額約5万豪ドルをオーストラリア赤十字社に寄付するなど、当地での日本企業代表としての役割を果たしています。

本年2月に日商・東商の経済ミッションが当地を来訪した際は、JCCIの宮地宏会頭（当時）が当地日本企業を代表して西シドニー開発についてのプレゼンテーションを行い、その直後の新年経済講演会・賀詞交歓会では、著名なエコノミストの嶋中雄二氏を講師に招くなど、日本の経済界との接点にもなっています。



「オーストラリアの日本人」表紙  
(Nikkei Australia ウェブサイトより)

● 「オーストラリアの日本人」の電子版公開

これに関連して、最近、『オーストラリアの日本人：一世紀をこえる日本人の足跡』という本が、Nikkei Australia という団体により電子版で公開され、無料でダウンロードできるようになったことをご紹介します。

この本は、1996 年から 1998 年までの日豪友好記念事業の一環として、1998 年に全豪日本クラブにより出版されたものです。記念誌統括コーディネーターは、シドニー日本クラブ・全豪日本クラブ初代会長の保坂佳秀氏が務めました。

このオーストラリアの地で、木曜島の真珠貝採取ダイバーから始まり、第一次大戦期の協力、第二次大戦期の対立、戦後の戦争花嫁から日本人技術者、芸術家、ビジネス移住者や駐在員まで、どのように生活し、活躍してきたかを体験者本人が執筆しています。このような先人の努力のおかげで、今の日本人の活動があり、そして今の日本人の活動が、将来の日豪関係を築くものと感じています。



祭りジャパンフェスティバル開会式で  
JCS・JSS・JCCI 代表、コック市会議員と鏡開き  
(2019年12月7日、Nathan Souriyavong-NS Studio 提供)

●当地の多文化社会に生きる日本人コミュニティのために

現在、シドニーの在留邦人数は約3万3千人なので、日本関係3団体に所属し活動している日本人は、そのごく一部に過ぎません。

しかし、シドニーの日本関係3団体は、毎年9月のカウラでの慰霊祭や12月の祭りジャパンフェスティバルなどの主要行事に際しての相互の連携・協力、森林火災への義援金の寄付などを通じて、当地における日本人コミュニティの代表として存在感と貢献を高め、当地の人たちの日本人に対する理解と親近感を深めています。このような3団体の「民間外交 (civil society diplomacy)」とも言える取組に、心から感謝しています。

オーストラリアは多文化主義を掲げ、様々な背景を持つ人たちが、当地でそれぞれの強みを生かして社会の発展に貢献しています。シドニーの日本関係3団体が、日本人同士の親睦を深め、互助を進めるとともに、当地の社会の一員として、様々な交流や貢献を一層推進することを期待しています。当館も、それを可能な限り後押ししていきたいと思えます。

シドニー日本人会 (JSS)  
<http://www.jssi.org.au/>

シドニー日本クラブ (JCS)  
<https://www.japanclubofsydney.org/>

シドニー日本商工会議所 (JCCI)  
<http://www.jcci.org.au/>

オーストラリアの日本人－1世紀をこえる日本人の足跡  
<https://www.nikkeiaustralia.com/japanese-in-australia/>

(以上)